

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ 温 (ぬくもり)		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	平成27年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191700046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏祭りは、温の駐車場にて縁日形式で行い、ご家族や地域の方を招待して楽しんでいただいています。 果物狩りは、ご家族と一緒に壮瞥町まで行き、リンゴやブドウを採って食べたり、昼食にはジンギスカンを食べて楽しませていました。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西 7 丁目 1 番 あおいビル 7 階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすえひろ温は、認知症高齢者介護に 1 0 年の経験を持つ法人の 2 つ目のホームとして開設されました。「福祉のまち」である今金町の高齢者福祉計画に沿い、地域で暮らしたいと願う認知症高齢者のホームの待機者解消だけではなく、地域の支え合いを支援する活動も積極的に行っています。ホームは広々とした開放的な作りで、ウッドデッキや花壇、畑などで自由に過ごすこともできます。地域との日常的な交流や催し物への参加や家族を交えた外出行事などの機会を多く持ち、利用者の意欲を引き出す取り組みを行っています。職員はセンター方式のアセスメントなどを用いて、利用者一人ひとりの気持や希望を大切にした支援について話し合いを行い、理念である「笑顔のある穏やかな生活」を支えるよう取り組んでいます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の時に全員で復唱している。 玄関に掲示している。	ホームの開設時に職員と管理者が理念を作成しています。「笑顔のある穏やかな生活を目指します」という理念を玄関に掲示し、職員が会議の際に唱和することで毎日のケアを通して理念の実現に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民文化祭への出品、お祭りやイベントの見学、買物や美容院へ出かけたり、学生や会の慰問もあります。 近所の方より野菜の差し入れもあります。	利用者も職員も地元の一員であり、顔見知りとの交流が日常的に行われています。地域の行事や祭りへの参加を行ったり、3ヵ月おきに法人の地域交流広場が開催され、幅広い年齢層と一緒に地域作りを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ぬくもり新聞を毎月発行しホームの様子を伝えています。 定期的に認知症や介護などをテーマとした地域の方対象の講習会・研修会を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の方、ご家族に参加して頂き状況報告や意見交換を行っている。 その結果を現場に活かされるよう取り組んでいます。	法人の3つの地域密着型サービス施設が合同で運営推進会議を行っています。年間計画や毎日の利用者の生活の様子などを報告し、参加者から意見を受けています。会議のメンバーは決まっていますが、議事録を全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報交換したりし、協力して頂いている。	福祉のまちとして、行政が様々な取り組みを行っており、ホームでも協力しています。町が推進する健康寿命を伸ばす取組ではホームの食事で減塩を取り入れるだけではなく、地域に向けての情報発信も行うなど、相互に連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加している方から職員会議で報告して頂き、他の職員と共有している。	外部研修に参加した職員が他の職員に伝達するようにしています。会議等の中でも実際のケアの場面で適切に行われているか検討を行い、職員も言葉による拘束がないかなど、利用者を尊重した介護を心掛けています。「身体拘束ゼロへの手引き」があり、職員が閲覧しています。日中の玄関の施錠は行っていません。	身体拘束を行わないケアの推進には、職員の介護力を高めていくことも不可欠です。それぞれのケアの標準的な手順を定めていくことが今後期待されます。利用者は自分の意思をはっきり表明できる状況ですが、今後に備え身体拘束の防止のための研修も職員教育の一環として位置づけていくことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その内容を職員会議で発表したり、資料等もいつでも観られる場所に置いている。 日頃から虐待が見過ごされることのないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が市民後見人になっている。研修で学ぶ機会がありました。成年後見制度の活用に向けて検討中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者、管理者が同席し重要事項の説明を行う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に意見や要望を伺い、他の職員と共有し運営に反映している。	家族の来訪時には利用者の様子を知らせ、意向を引き出すようにしています。家族が訪問できない場合は電話での連絡も行っています。また、ユニット毎に利用者の日常生活の一コマを掲載した「たより」を毎月送付しています。家族会や家族が参加できる外出行事もあり、利用者の生活状況を直接知ってもらう機会を設けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見交換している。日頃より管理者へ相談できる。個人面談の機会を設けている。	毎月の職員会議とユニット会議があり、それぞれ職員が発言しやすいようにしています。毎年法人社長と専務との個人面談の機会があり、直接意見を伝える機会もあります。職員の働き方や福利厚生などに関する意向などを受け、毎年5日連続で取得できるリフレッシュ休暇制度なども開始されることになっており、職員の労働環境も整備されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修への機会が沢山あり、研修後には会議等で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	としべつ道場、地域交流広場へ参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や日常会話から本人の意向や要望を聞き、職員間で話しあいながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や疑問等を十分に伺い、安心して暮らせるよう関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況と家族の要望をもとにして、何を優先するのか考えながら行っている。 ユニット会議で意見交換している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の力に合わせお手伝いして頂いている。 又、料理の味見や野菜の切り方も教わったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況の報告等、日頃より関係作りに努めている。夏祭り、お誕生会、果物狩り等に参加して頂き、共に支えていけるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会もあります。 なじみのお店や場所に出かけることもあります。 隣のユニットの幼なじみの人に会いに行くこともあります。	近隣からの入居が多いため、友人・知人の来訪も頻繁で、ホームで利用者と一緒にくつろいでもらえるようにしています。町内の文化祭への参加や馴染みの美容室でのおしゃれなど、利用者が大切にしている習慣や人間関係を継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり、ぶつかったりしないよう関わっています。 レクや体操等の参加など声がけし、きっかけ作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で行きかたりした時には「お元気でしたか？」と声かけしている。 契約終了した家族が時々来設して下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し本人の変化等をチェックし思いを大切にできるケアに努めている。 日頃から本人の思いを大切にしている。	センター方式のアセスメントを3ヵ月毎に作成しています。また、随時書き加えながら利用者の思いを受け止め、趣味や得意なことなどを通じて意欲をもって生活できるよう職員が検討を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方を本人、家族から聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、普段の関わりの中で体調確認し、職員間で伝達し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、本人・家族と相談し思いや現状を職員間で話しあい、より良い生活ができるような介護計画の作成に努めている。	介護計画は3ヵ月おきに見直しています。職員が担当の利用者の記録を整備し、次の計画を会議で検討しています。毎月のユニット会議の中で利用者の状況に変化があった場合にも変更することになっており、利用者の現状に合った計画となっているかを確認しながらケアに当たっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態の変化等、個別に記入し職員に伝達、日々の介護計画の見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの状況把握し、様々な支援ができるよう取り組んでいる。 職員と共に自宅まで物を取りに行くこともあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの美容院や病院へ出かけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけの病院受診。 今金国保病院の訪問診療。 無料歯科検診を受けています。	入居前からのかかりつけ医への受診も職員が同行しています。国保病院の定期的な訪問診療を受けることができます。また、事業所の非常勤の看護師の受診同行や病院との連携も行っており、適切なタイミングでの受診や日常的な健康管理にも取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録、伝達ノートを使い日頃の様子や変化等を伝え受診につなげたり、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換や連絡をとり、緊急時の相談・支援をいただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族と話しあい、医療機関と相談しながら、事業所でできる支援に取り組んでいます。	重度化や終末期の指針があり、同意書を交わしています。開設からまだ2年であり要介護度も低い利用者が多いため、終末期を視野に入れた介護を必要としたケースはありません。	終末期に対応できる往診医などとの連携が可能か等、事業所の努力だけではなしえない終末期支援について、事業所内での意思統一を図り、今後のニーズに応じていくため職員の介護力の向上を含めて準備を進めていくことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもとに、応急手当や心肺蘇生法の研修を行っているが、定期的に訓練は必要と思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施（地域の人も参加）。非常食の準備もしている。	避難訓練は年二回、消防署や消防団等の地域の協力を得ながら実施しています。平屋建てでスプリンクラーや避難経路も多く確保されています。また災害などによるライフラインの寸断などに備えて備蓄も行っています。	緊急時に備え、法人内の連携や隣接する住宅や施設とのより緊密な連携が期待されます。何かあった時に職員が迷わず行動できるよう、更に大規模災害で電話等が不通の場合でも応援が得られるよう予めの打ち合わせも進めていくことが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として敬う気持ちを忘れず、やわらかい言葉づかい、声がけするよう心がけています。	利用者の性格や生活歴、価値観をアセスメントし、どのような対応が良いか職員で共有しながら実践しています。職員が自分が相手の立場であったらと常に考え温かな気持ちが伝わるように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを出していただけるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを第一に考えて接するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい服を選んでもらったり、化粧品等要望に応える。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握しメニューに入れている。食器拭き、イモの皮むき、もやしのひげとり等を一緒に行っています。	利用者の好みを取り入れた献立で、温かい食事を満足感をもって食べられるよう、食事内容と食器やおひつなどを工夫し雰囲気作りも行っています。海のものや野菜など旬の食材を使った薄味でも出汁や食材そのものの旨味を活かした調理を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分、水分量、ご飯の固さや、食べやすい大きさに切ったりし調節している。本人に飲みたいものを聞いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後や就寝時、声がけしたり介助させていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立を目指した支援は難しいが、声かけや介助にて排泄の失敗を防ぐようにし、パットの使用量を減らせるよう工夫している。	排泄は自立している利用者が多い状況ですが、失敗があった場合にはさりげなく支援を行っています。また、排泄パターンを把握し声掛けによる誘導の際には周りへの配慮をし、利用者の自尊心や生活への意欲が持てるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、看護師、医師と相談し薬の処方されることもあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日指定している方もいます。拒否がある時は無理強いせず、日を改める等の工夫をしている。	利用者は週2回の入浴をしています。入浴が好きではない利用者には気分が良い時に声掛けをしたり、家族の協力を得ながら入浴の支援をし、足浴なども取り入れています。リラックスして入浴できるよう入浴剤や歌を一緒に歌うなど工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを大切にし、昼寝や休息等できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果や変更等、記録や伝達ノートで共有できるようにしています。変化のある時NSに報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力、役割を引き出せるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスに出て日向ぼっこしたり、散歩や買い物に行ったり、野菜の収穫や手入れ等して頂いている。花見、ドライブ、紅葉見物に出かけている。 9月には果物狩りに家族と共に出かけている。	ホームの2つのユニットの間にあるウッドデッキは屋内からそのまま素足で出ることができます。外気浴やお茶を楽しみ、そのまま畑での作業など、自然に外に出て活動できるよう促しています。散歩や家族も交えた外出行事などもあり、利用者が閉じこもりがちにならないようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方は買物や美容院へ出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、家族やお友達へ電話の取り次ぎをしています。 年賀状も出しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節感を感じられるよう飾ったりしている。心地良く感じられるよう、明るさや湿度にも気を配っている。	バリアフリーで衛生環境に配慮した広々とした造りとなっています。利用者がユニット間や外へと自由に行き来でき、職員が見守りできるよう工夫されています。温度差が生じない暖かな室内は清潔に保たれ、利用者の状況や活動に合わせたレイアウトができる可動式の小上がりスペースや食堂の家具の配置が工夫されています。利用者の作品や行事の写真が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小上がり、食卓と各々気の合う方同士で過ごしていただいている。 となりのユニットの友人に会いに行くなどしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの小物や写真、置時計等を持ってきていただいている。	利用者の居室にはベッドと大型の収納用ロッカーが備え付けられており、私物をすっきりと収納することができます。居室には入居前から使い慣れた家具や仏壇、趣味の道具などがあり、それぞれの利用者が使いやすいように整えられています。居室のドアには鍵がついており、プライバシーを守って生活できるという安心感を持っている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場、居室に札を貼り表示している。		